

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090400134		
法人名	株式会社ホーム商会		
事業所名	グループホーム豊馬の里		
所在地	〒372-0842 群馬県伊勢崎市馬見塚町130-1		
自己評価作成日	平成28年11月20日 作成	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

伊勢崎市内の地域住民が利用できる2ユニットのグループホーム。認知症高齢者が身近な地域での生活が継続できるよう支援している。
 当事業所では、地域住民との交流も交え、認知症高齢者が快適に生活できるように、ご家族様にも一緒に協力して頂き、安心して暮らせるような環境づくりに努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成28年12月14日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1号館は平成23年、2号館は平成27年に開設され、現在2ユニットである。家族や利用者の知人などの参加を促して、月に1回利用者の要望を取り入れた園外レクリエーションを実施している。その結果、馴染みの関係の継続や利用者本人の思いを共有することができ、「家庭的な笑顔あふれる」という理念の実践に繋がっている。また、ホームを家庭の延長であると考え、入浴においては、使い慣れた化粧品やクリーム、シャンプーなどを各々用意する支援を行い、利用者の楽しみが少しでも増えるように取り組んでいる。運営推進会議においては、区長を始め、老人会長、民生委員、利用者、保育園園長、市職員など多種多様な方に参加していただき、意見交換の幅が広がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は職員玄関と正面玄関に掲示されており、職員は理念に基づくケアを心掛け共有し実践している。	理念に基づいた年度方針は作成していないが、利用者が家庭でしていたことを事業所でも一緒にしていただける工夫をしたり、園外レクリエーションを通じて楽しく嬉しくなるような家庭的な雰囲気づくりしたりして、ケアに反映できるように取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時に、近隣住民や保育園児と挨拶や会話を交わすなど交流の場を広げている。	近隣保育園の運動会の練習を見学したり、納涼祭への参加を区長を通じて促したりしている。また、散歩時に行き会う人とお話するなど、近隣住民と触れ合えるように取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設行事(防災訓練、運営推進会議など)の場で、区長をはじめ地域の代表の方々に施設の状況や理解を深めて頂けるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	出席者は、利用者、利用者の家族、区長、民生委員、老人会、保育園の園長、市職員に参加して頂き、日々の様子や活動報告をし、意見交換の中で得られた情報をサービス向上に活かしている。	利用者の様子や活動報告をし、ボランティアの紹介や園外レクリエーションとして楽しめそうな場所を教えてもらっている。川が近いので、他県のグループホームの水害事故の教訓から、水害事故が発生した場合の避難勧告の受信や避難場所の確認を行っている。過去6ヶ月間に家族の参加は得られていない。	家族の参加にむけて、働きかけや取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員に運営推進会議への参加を呼び掛け、状況報告をしている。また、毎月13日までに施設の空き部屋情報を報告し、事業所の実情把握にも努めて頂いている。市職員から施設外研修のお知らせや、施設内での感染予防、災害時の対策などの情報も送られてくる。	感染症や災害に関することなど市から送られてくる情報を掲示して、職員に周知している。管理者自身が、市役所に出向き、わからないことを相談することで連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関に自動ロックの施錠扉がある。西側のフロアからは死角になっている。訪問者が多いため、日中などは徘徊している利用者へ付き添い声掛け見守りを強化している。	「身体拘束ゼロの手引き」を使用して禁止事項等を学習したり、カンファレンスでは意見を出し合ったりすることで、身体拘束に関する理解を深めている。しかし、徘徊に対しては、施錠に頼っている現状がある。	日常生活の見守りの強化を図り、日中、時間を決めて1ヶ所からでも鍵をかけないケアの工夫を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議でよく話し合い、利用者にとってより良い生活が送れるように意識向上に努めている。また、身体拘束ゼロの手引きを参考にしたり、施設外研修なども積極的に取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議の中で、成年後見人制度について勉強する機会を設けた。今後、地域包括支援センターと連携を取り合い、制度を学ぶ研修会に積極的に参加させていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、運営規程書、重要事項説明書、契約書を使い説明し、ご利用者とご家族の了承を得、利用契約を締結している。また、説明後に、不明な点等ないか再度確認をし、ご利用者とご家族の不安や疑義を解消できるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしている。また、ご家族来所の際には、意見や要望を聞くよう努めている。ご利用者とご家族には、運営推進会議の出席も促し、地域住民との交流も交えて、意見交換ができる機会も作っている。	利用者に誕生日のプレゼントで欲しいものや園外レクリエーションで行きたい場所を聞いたり、家族に来訪時に日頃の状況を話し、要望を聞いたりしている。家族の、利用者が夜お腹が空いたときのためにお菓子の持参の要望に対し、柔軟に対応している。運営に関する意見や意見箱への投稿は見られない。	家族から運営に関して意見・要望を引き出すための手段や機会づくりの検討を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議内で管理者が各々を指名し、一人ひとりが発言できる機会を設けている。また、そこで提案された意見は、その場でよく話し合い検討をする。会議内容については、職員が記録を付け、全職員が閲覧できるようにしている。職員間の情報共有は、基本的に職員ノート(申し送りノート)を活用している。	代表者も参加しての職員会議を、月1回ユニットごとに開催している。利用者の対応の仕方を話し合ったり、園外レクリエーションや施設内レクリエーション等で必要な物品などを、職員の意見を聞いて決めている。議事録を作成し、参加できなかった職員が閲覧できるようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修の機会は勧めているが職員同士でのケアの向上に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	交換研修の機会を設けたり、サービスの質を向上させていく意見交換を奨んでしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	本人と向き合いながら、その方のニーズに答えられるよう職員と家族で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族と共に御本人様が安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることや、利用者の要望に傾聴し、利用前であっても相談に応じ、利用者が安心して生活できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族と話し合い、グループホームでの生活に適しているかを見極め、相談に応じている。また、他の施設などでも利用が可能か、利用者と家族の要望を踏まえた上で、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、職員との信頼関係を築き、利用者が安心して生活できるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と利用者の要望に傾聴し、利用者が心地よい生活を送れるよう支援している。家族にもできる事や参加行事には積極的に勧めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、幼馴染の友人や知人が気軽に面会に来られる雰囲気作りをしている。また、園外レクや夏の納涼祭には、地域住民や家族への参加も呼び掛けている。	家族や昔の友人、知人に会うと笑顔になるので、気軽に面会に来ていただいたり、園外レクリエーションへの参加を呼びかけたりしている。記憶が風化しないように、園外レクリエーション時の写真を一緒に見てもらっている。また、月に1回来訪する傾聴ボランティアの人との会話を通じて、馴染みの関係が持続できるようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	施設内レクや屋外レクを行い、利用者同士が関わり合いながら過ごせるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や支援に努めている。問題が発生した場合はアセスメント情報や当事業所にいた時の様子を公開する。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人の尊厳を大切にされた支援に努めている。利用者が意思疎通困難な場合は、家族からの話や本人の生活歴から、話し合いの中に検討している。	自分で製作したテーブルを事業所に持参してもらうなど、本人の思いに沿った支援を、日頃から職員で話し合っている。また、意思疎通が困難な場合には、家族に意見を聞いたり、日頃の様子から職員間で話し合ったりしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の今までの生活環境を把握して、その人に寄り添った生活しやすい環境を作れるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌や申し送りで一人ひとりの様子を把握し、より良いサービス提供ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の現状や家族の要望と意見を踏まえ、職員会議で職員の意見を出し合い、個々の介護計画を作成している。	利用者一人ひとりの日々の介護日誌のなかに、ケアプランの短期目標の項目を設け、職員全員がケアプランの目標を意識した支援をしている。しかし、モニタリング表の短期目標と介護日誌の中の短期目標の項目が一致していない箇所がみられる。	介護日誌の援助目標の実施欄を改善し、サービス内容の日々の取り組み状況が把握できるように検討することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や職員会議等で意見を出し合い、情報共有交換をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々生活されている中で、固定された支援に捉われず。その都度臨機応変に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアの来訪を月一で行っている。また、市役所で提供しているボランティア団体を活用したり、職員の友人などに来訪してもらい、催し物をして頂く機会を定期的に設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者個々のかかりつけ医療機関があり、原則家族対応にしている。また、遠方や家族対応がやむを得ない場合は、事業所で連れて行く。	血圧や日常の様子を家族に説明して、家族対応で受診をしている。その結果を職員間で共有するように記録として残し、ケアに反映させている。歯科に関しては、訪問歯科診療で対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活での気づきや変わった様子は、常時ケアマネ(看護師)や管理者へ報告相談をし、利用者の体調管理などに気をつけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に利用者の情報記録(服薬歴など)の提供を行っている。また、入院中には病院側と今後の見通しについて話し合い、ご家族を通して相談にも応じている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者と家族の希望もあり、医師の指示のもと、施設対応できるようであれば都度相談に応じている。家族の面会時や受診時に、常時日頃の利用者の状況報告を行っている。	入居時に、ターミナルケアは行っていないと口頭で伝え、重要事項説明書にも記載している。ただし、利用者や家族の希望があり、主治医の協力が得られるようであれば相談に応じるが、ターミナルケアの事例は、開設以来経験していない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設にマニュアルを設置し、職員が緊急時でも迅速に対応できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の場で、自然災害時の対応や避難場所の確認、地域との協力体制について、話し合う機会を随時設けている。また、防災訓練を年二回開催し、消防署合同参加の消火、通報、避難訓練の実施、消防設備点検を行っている。	昼間と夜間想定避難訓練を年に2回実施し、1回は消防署立会いで、通報・消火・避難訓練を行っている。自然災害時の対応については運営推進会議で話し合っているが、地域連絡網作成には至っていない。備蓄は、委託先の食材会社に依頼している。	地域連絡網などの作成を通じて、具体的な地域との災害時の協力体制を築かれることを期待したい。

自己	外部	項目	外部評価	
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの尊厳を大切にし、言葉掛けの仕方にも気をつけている。また、施設内や通信に写真掲載をする機会が多いので、プライバシーの確保や個人情報の管理にも徹底している。	お客様としての視点を大切にして、「ちゃん」づけではなく「さん」づけ、丁寧な口調の言葉かけを意識している。入浴は男女の順番を工夫したり、排泄においては「汚れているから交換しましょう」などの言葉は使わず、尊厳に配慮した対応をしている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で、利用者の思いや希望を受容し、自己決定できる場面をつくれるよう心掛けている。	
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れを固定化するのではなく、その日の体調や様子をよく観察し、利用者のペースに合わせた支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望に応じて、訪問理美容(散髪)を利用して頂いている。 利用者が今まで着用していたお気に入りの洋服や、季節に合わせた服装ができるようご家族様にも協力して頂いている。	
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理を一緒に行う機会を増やしている。誕生日や行事には、ケーキや創作菓子を利用者とすることがある。食器洗いや片付けなど、できる方には手伝って頂いたり、料理の味見をして頂いている。	職員は、休憩時間の都合で利用者と一緒に食事を摂っていないが、行事や誕生日には利用者の好きなものを聞いて、一緒に手巻き寿司等を作って食べたり、外食時には、好きなものを選んでもらったりして、食事を楽しむことのできる支援をしている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の栄養バランスに配慮している。毎日水分量のチェックを行い、水分量の確保に努めている。日替わりで、飲み物を変える工夫をしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に訪問歯科を利用して頂いている。また、毎食後に口腔ケアを実施し、お一人お一人の能力に合わせ、声掛け見守り介助を行っている。総義歯や部分義歯の利用者の義歯洗浄は、毎日施行している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄時間を常々チェックし、排泄のパターンを把握することに努めている。 見当識障害の見られる方へは、声掛けトイレへの案内を行い、自立に向け排泄の失敗を軽減できるよう努めている。	排尿回数や便の形状や量について排泄記録表に記入し、利用者の排泄パターンを把握し、トイレ誘導や声かけを通じて、自立に向けた支援をしている。夜間帯も起きてこられた場合は、その都度声かけてトイレ誘導している。現在、おむつの使用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食材やヨーグルトを定期的に提供し、排便がスムーズにできるよう心掛けている。また、身体を動かす機会を増やし（散歩や体操レクなど）便秘薬に頼らず、自然排便ができるよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯や曜日は決まっているが、本人の体調に合わせ、入浴日の変更をすることがある。 利用者のニーズに合わせた入浴時間を確保調整できるよう努めていきたい。	利用者が在宅で暮らしているときに使用していたシャンプーやリンス、クリームなどを、家族に用意してもらっている。介助しながら昔話をしたり、世間話をしたり、入浴剤を使ったりして、入浴を楽しめる工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のライフスタイルを崩さないような環境づくりに努めている。夜間良眠できるよう日中は活動を促したり、生活リズムを崩さないよう心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容を職員が把握できるよう、職員もすぐに見て分かるファイルに保管している。また、服薬内容に変更や、主治医の申し送り事項があった場合、職員間で情報を共有し、服薬状況も毎日記録している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴から趣味や嗜好を探り、役割が持てる場を作れるよう努めている。 園外レクを定期的実施しており、利用者の気分転換に繋がるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天候が良い日には、園外レクを実施している。（一ヶ月に一回ペース） また、生活品の買い物などで、ドライブに行ったり、散歩に出掛けている。	家族にも参加を促し、利用者にも行きた場所を聞いて、園外レクリエーションとして外出するように取り組んでいる。市民の森公園や小菊の里に花見に出かけたり、個別的な支援としては利用者と一緒に菓子等の買物に行ったりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設トラブルの原因になるため、基本的に利用者へ金銭の所持はさせておらず、金銭を利用する場面(園外レクや生活品の買い物など)では、立替として施設側が一時負担し、月払いの施設利用料請求時に、一緒に利用した領収書を渡し、お支払いして頂いている。ただし、利用者ご家族の希望により、やむを得ない場合、金銭管理契約書又は預かり書に利用者ご家族のサインを頂き、金銭管理ができるよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて、電話を利用して頂いている。 手紙や年賀状も出せるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	行事に合わせた飾りなどを貼っている。玄関に園外レクで行った場所の写真を掲示している。	毎日清掃し、居心地のよい共用空間を保っている。危なくないように居間にミラーを設置し、死角をなくして安全・安心の空間作りに取り組んでいる。季節の花や創作レクリエーションの飾りを壁面に貼って、季節を感じることができるようになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアに横並びのソファを置き、利用者同士が寛いで談笑できるような空間を創っている。また、座る席の配置も心掛けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者ご家族と話し合い、利用者が使用していた物品や、家庭で馴染みのあるものを持ってきて頂き、今まで過ごしてきた環境に近い雰囲気づくりに努めている。また、好みにベットやタンスの配置など、利用者ご家族の希望を聞き要望に応じている。	居室入口には、利用者の氏名と家族と一緒に撮った写真が貼られている。家で使って慣れ親しんだシーツや布団を持ち込んでもらっている。また、誕生日会の写真等を飾って、楽しい時間を思い出してもらえるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内のトイレ、脱衣所、居室にはそれぞれプレートで表示しており、一目でわかるようになっている。施設内には手すりが赤色で設置され、玄関先にはスロープがあり、バリアフリーにも特化している。また、入居中に、利用者の認知症が重度化し、居室内の物品に危険性が生じた場合、ご家族へ一度相談をし、利用者の安全も確保できるよう努めている。		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰が見ても分かりやすい理念にしている。また、理念を職員だけが把握するだけではなく、利用者や訪問者も認識できるよう掲示している。その意識のもと、職員間で話し合い意識向上に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接している保育園との交流を行っている。また、散歩や園外レクリエーションの機会も多く、利用者の楽しみを増やせるよう努めている。町内の傾聴ボランティア様に月一で来て頂き、利用者とは話せる機会を設けている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、施設内行事や園外レクの様子などの写真を掲載し、認知症の方の理解をして頂く機会を設けている。また、一般の人が聞き慣れない既往症など、会議でひとつひとつ取り上げ、詳細に説明している。施設通信を作成し、地域住民の理解を深めて頂けるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に一度開催しており、区長、民生委員、市職員等に参加をして頂き、情報交換をしている。災害時の対応や、介護職員の人手不足問題などの施設側の質疑や相談にも、的確なアドバイスを頂き、協力合いの関係性を築いている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市職員に運営推進会議への参加を呼び掛け、状況報告をしている。また、毎月13日までに施設の空き部屋情報を報告し、事業所の実情把握にも努めて頂いている。市職員から施設外研修のお知らせや、施設内での感染予防、災害時の対策などの情報も送られてくる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関にボタン操作で開閉する施錠扉がある。徘徊の頻繁な利用者様の見守りを強化しているが、精神障害者施設での事件もあつたため、外部からの安易な侵入の防犯強化もあり、難題ではある。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束ゼロへの手引きを参考に、職員間で日頃の利用者との接し方に問題点はないか、職員会議や日々の会話の中で改めて意識を深め合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議や研修会で、職員一人ひとりが制度の必要性について学ぶ機会を増やしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、運営規程書、重要事項説明書、契約書を使い説明し、ご利用者とご家族の了承を得、利用契約を締結している。また、説明後に、不明な点等ないか再度確認をし、ご利用者とご家族の不安や疑義を解消できるよう心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置をしている。また、ご家族来所の際には、意見や要望を聞くよう努めている。ご利用者とご家族には、運営推進会議の出席も促し、地域住民との交流も交えて、意見交換ができる機会も作っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議内で管理者が各々を指名し、一人ひとりが発言できる機会を設けている。また、そこで提案された意見は、その場でよく話し合い検討をする。会議内容については、職員が記録を付け、全職員が閲覧できるようにしている。職員間の情報共有は、基本的に職員ノート(申し送りノート)を活用している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員間でコミュニケーションを蜜に図り、なんでも気軽に話せる関係を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を設けている。職員間でのケアの向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設とのレベルアップ交換研修の機会を設けている。サービスの質の向上をさせていくよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者のニーズに応えられるように、ご家族と職員で話し合いながら、日々意見交換をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていることや、利用者の要望に傾聴し、利用前であっても相談に応じ、利用者が安心して生活できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族と話し合い、グループホームでの生活に適しているかを見極め、相談に応じている。また、他の施設などでも利用が可能か、利用者と家族の要望を踏まえた上で、対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、職員との信頼関係を築き、利用者が安心して生活できるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と利用者の要望に傾聴し、利用者が心地よい生活を送れるよう支援している。家族にもできる事や参加行事には積極的に勧めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、幼馴染の友人や知人が気軽に面会に来られる雰囲気作りをしている。また、園外レクや夏の納涼祭には、地域住民や家族への参加も呼び掛けている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりのその日の体調や様子に応じて、無理のないよう行事へ参加して頂いている。他の利用者との交流も図れるようレクリエーションへの参加も促している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居先への利用者の情報公開や、必要に応じて家族からの相談や支援にも努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、利用者が望まれる環境作りに努めている。また、本人にあった支援ができるよう生活習慣や、行動や言動に傾聴し、家族とも相談し合いながら日々検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前に、必ず実調へ伺う。そこで得た情報と、これまでの情報提供書をもとに、利用者が当施設でも安心して住めるような環境作りに努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日によっても体調が異なるため、一人ひとりの利用者にあった生活ができるように支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議や職員間の申し送りで、検討された内容について、利用者の状態にあった介護ができるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子は介護日誌又は申し送りノートに記載し、職員間で共有している。また、医療機関へ受診した際には、主治医からの申し送りや処方箋内容などを、医療ノートにて情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて、そのニーズに対応している。その方の能力を見極め、自尊心を傷つけないように、自らできることはして頂くように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアの来訪を月一で行っている。また、市役所で提供しているボランティア団体を活用したり、職員の友人などに来訪してもらい、催し物をして頂く機会を定期的に設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者一人ひとりが、かかりつけの医療機関があるので、家族が連れて行く。家族が連れて行けない時は、当事業所で連れて行く。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の生活を見ていて変わったこと等があった時は、すぐにお管理者又はケアマネに相談をし、利用者が安心して生活できるよう努める。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけの医療機関があるので、受信の際は相談に応じている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に終末期のあり方について、施設で取り組めることの説明を十分し、利用者やご家族の要望をお聞きしながら支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設にマニュアルを設置し、職員が緊急時でも迅速に対応できるよう備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議の場で、自然災害時の対応や避難場所の確認、地域との協力体制について、話し合う機会を随時設けている。また、防災訓練を年二回開催し、消防署合同参加の消火、通報、避難訓練の実施、消防設備点検を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりの尊厳を大切に、言葉掛けの仕方にも気をつけている。また、施設内や通信に写真掲載をする機会が多いので、プライバシーの確保や個人情報の管理にも徹底している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者とのコミュニケーションをとり、悩んでいる事等を話してもらい、解決できるよう選択しを提案し、納得して自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レク参加への声掛けもするが、利用者の要望も優先し、過ごしたいように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人に洋服を選択してもらったり、園外レクや外出時にはお化粧をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日の時には、本人に食べたいものを聞き、それを取り入れたメニューを考え作ったりしている。食材の下準備や下膳、食器拭きなど、出来る事は一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は調理食材配達サービスを利用し、栄養バランスカローリなど管理している。調理の際、一人ひとりに合わせ、固さ、大きさなど、食べやすいよう工夫している。食べ残が多い場合は、少しでも多く食べられるように声掛けをしている。水分量は、日誌に記録し、摂取量が少ない場合は食事、おやつの間、就寝前等、補給して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを施行。毎週一回、歯科医の訪問治療を実施し、必要な場合は、家族の同意を得て、治療を受けて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	当施設では、リハパン使用者が多く、ほとんどの方が自立している。排泄機能低下による失禁を避けるため、利用者個々の排泄リズムの把握に努め、自立で排泄ができるよう声掛けをしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を内服している利用者は、日々の排泄頻度をチェックし、かかりつけ医療機関の医師の指示を仰ぎながら、内服調整をしている。また施設内では、歩行練習、リハビリ体操、レクリエーションで体を動かしたり、白湯を摂取して腹部を温めるなど工夫し、自然排便ができるようにも努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は、週3日と曜日は決めているが、その日の利用者の体調を見て、入浴日を変更することもある。利用者が安心して入浴できるように、本人の能力に応じて、職員がそばで付き添い介助している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に応じて、一人ひとりに適切なケアを心掛けている。また、夜間眠れない時には、会話をしたり、温かいものを飲んでもらったりする。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	施設側で薬の管理をしている。処方箋ファイルに、利用者一人ひとりの内服の目的や副作用、用法、用量を職員が常時確認できるようになっている。また、内服中に問題が生じた場合、かかりつけ医療機関に相談をし、早急に対応できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の能力に応じて、テーブル拭きや配膳下膳、お掃除などをお手伝いして頂いている。また、創作レクを利用者と一緒に行い、利用者の楽しみごとをつくる機会を設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者一人ひとりの行きたい所の意見を聴取し、園外レクを決めることもある。園外レクリエーション、施設内行事がある時には、家族にも声を掛け、利用者楽しんで頂ける支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設トラブルの原因になるため、基本的に利用者へ金銭の所持はさせておらず、金銭を利用する場面(園外レクや生活品の買い物など)では、立替として施設側が一時負担し、月払いの施設利用料請求時に、一緒に利用した領収書を渡し、お支払いして頂いている。ただし、利用者のご家族の希望により、やむを得ない場合、金銭管理契約書又は預かり書に利用者のご家族のサインを頂き、金銭管理ができるよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了承を得て、本人に電話や手紙等のやり取りもできるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	普段皆さんで過ごされるフロアには、明るく綺麗で、清潔さを取り入れ、利用者にとって気持ちよく過ごされる場所づくりをしている。また、季節感を測れるように、季節に合わせて、利用者と職員で作成したものを施設内に掲示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	手作りの制作を飾り、明るく開放的な共有空間になっている。その日に応じて、施設内の適切な空調管理(温度調整)ができ、またソファが設置されているため、利用者同士が集まり談笑される場所をつくり、のんびりと寛げるような落ち着いた雰囲気となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が不安と感じる環境変化への戸惑いを緩和するため、生活で使い慣れた親しみのあるモノや、衣服、書物や日記等を居室へ置き、安心して生活をして頂けるような環境づくり努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	動線の障害物を無くし、転倒事故防止に努めている。トイレ内や浴室までの廊下に、手すりを設置し、歩行が不安定な利用者でも伝い歩きができるように環境にも配慮している。		